

巻 頭 言

継続は力なり、引退はまだまだ！



日本教職員バドミントン連盟
会長 関 場 武

めでたく創立51年を迎えた。昨秋には50周年を祝して、会員の方々はもちろん、公益財団法人日本バドミントン協会会長綿貫民輔氏、専務理事関根義雄氏、事務局長今井茂満氏をはじめとする来賓の方々や、本連盟初代理事長平田登志郎氏らの大先輩を交え、なごやかな集いを開催することが出来、JEF NEWSの創立50周年特別記念号の発刊も見た。そしてまた、年末には第1回の全日本教育系学生バドミントン選手権大会を起ち上げることが出来た。あらためて、これまでに賜った皆様方のご支援・ご協力に対し、衷心より感謝を申し上げる次第である。

ところで今年、またオリンピック・イヤーが巡って来た。ロンドン大会への出場権を巡っての1年に及ぶ厳しいレースが終わり、周知の如く男子ダブルスは佐藤翔治・川前直樹ペアが出場権を獲得した。佐藤選手は、本連盟の監事佐藤正氏のご子息である。女子ダブルスのスエマエ、混合のイケシオもそうであるが、翔治選手も、長い間一線に立ち続け、数々の好成績を挙げておられる息の長いプレーヤーのひとりである。ご両親が毎週日曜日に東京新宿の勤労福祉会館で練習をしておられる頃、抱っこして連れて来ておられた赤ちゃんの頃の同君を、何回か拝見したことがある。代々木第2体育館等で、選手席や観客席を活発に走り回っていた田児選手の幼少時代と共に、懐かしい思い出である。

さて、今回のオリンピックの後、バドミントン界も、世代交代が起こる可能性がある。ピーター・ゲードは既に五輪後の引退を表明している。おそらく何人かの名選手たちが一線を退くであろう。佐藤選手がそのひとりであるというわけでは全く無いが、日本でも何人かが引退を表明し、男子で言えば、田児選手を筆頭に、本連盟事務局長上田敏之氏のご子息で、現ナショナルチームのメンバー拓馬君、それにバックアップメンバーの中の何人かが、今以上に存在感を増して来るであろう。NBAの指導体制の充実もあって、近年、日本のバドミントンの競技力は男女共に格段に伸びて来ている。大変嬉しいことである。

さて、その選手達の育成に預かって力あるのが、本連盟の会員である皆様方である。そして、選手育成だけではなく、一般の児童・生徒、学生に対し、生涯スポーツに繋がる学校教育としてのバドミントンの指導をしておられるのが皆様である。老害を及ぼしたり、後進の者たちの邪魔をしてはいけませんが、皆様方には長年培ってきたノウハウがある筈である。目まぐるしく変転して行くこの世を目の当たりにし、そのあまりの速さに、時として押し流されそうになりながらも踏みとどまり、熱心に教育指導に当たっておられるのが、JEFの皆様である。長い目で見ての指導は大切である。小生が関係している某女子高などは、3年になって間もない6月初旬に、毎年「引退式」なるものがある。その時いつも言うのは、これは一旦の区切りであって「引退」では無い。部を仕切るという点ではそうであろうが、バドミントンとしては「引退」では無い。嫌いでなければ続けるべきである。オリンピックを目指すというのでなければ、その気があれば何歳になっても、それなりに出来る。とくに近年は公共施設の一般開放が進み、愛好者、同好者たちの様々なクラブがある。ラケット、シャトルにしても色々なものがあり、自分に合っているものが選べる。ウェアに至っては審査合格品なら何でもよくなり、街中を闊歩している女性たちと同じように、パッチ状のものを穿いていてもお咎め無し。いい時代になった。だからバドを続けろ、やめるのはバッドだと言っている。

しかし何となく、これまでJEFは男性上位で来たような気がする。男子は70歳以上の単複が出来た。女子も漸く50歳以上が設定されたが、そろそろ女子も60歳以上のそれを、エキジビションでもいいから考えて行くべきではないか。懸案のレディースとの二重登録の問題も、今季は無理にしても、近々解決するであろう。鉄人杉田博先生をはじめ、鉄女…女史も居られる。80半ばを越えられた平田登志郎先生もまだまだ現役でいらっしゃる。派遣審判員の中にも、制度発足以来続けて来てくださっている方が居られる。スゴイこと有難いことである。「継続は力なり」とはよく言われること。プレーヤーにしても審判、指導にしても、継続して行くには、それなりの努力、気力、体力が要る。本連盟も、もちろん発展的な継続が求められている。会員数の増加を含め、皆様方の更なるご支援・ご協力を御願ひ申し上げたい。なお、末筆になったが、これまで会長や名誉会長をお務め頂いた下村博文衆議院議員に代わり、本年度から桜内文城参議院議員が名誉会長に就任された。これまでの下村氏のご支援に対し篤く御礼を申し上げますと共に、桜内氏にも一層の温かい後方支援を賜わりたく御願ひ申し上げます次第である。